

# With

2005

冬

vol.31

## ウィズセンター情報誌

- **特集** ウィズフェスティバル2004開催  
みんなでチャレンジ! 自分らしさを活かせる社会
- 参画社会へLet'Go! 貝畑 和子さん
- メディアからの発信 竹信 三恵子さん
- DV防止法の改正

## みんなで☒チャレンジ! ☒

# 自分らしさを活かせる社会☒

岡山県男女共同参画推進月間(11月)の行事として、11月6日~14日までの9日間ウィズセンターを会場にウィズフェスティバルを開催しました。☒

若草保育園のかわいい園児たちの鼓隊演奏で始まり、石井県知事ほか、関係者によるテープカットのあと、山陽女子高校の生徒によるバントワリングで華やかに幕をあけました。☒

また、オープニングに先立ち、10月26日・27日に岡山一番街のイルカの広場でプレイベントを開催してウィズフェスティバルをPRしました。☒



With Festival 2004

### 実行委員長あいさつ☒

フェスティバル開催に向けて24名の実行委員が7回にわたり全体会を開き、各部の部会を重ねながら、企画から運営まで全てを手がけました。

今年で6回目ということで、昨年とはひと味違った企画をしようと広報部会の尽力により、初めて岡山一番街のイルカの広場において、2日間のプレイベントも開催しました。数々のアトラクションに多くの人々が立ち止まってくださり、PR効果は抜群だったと思います。

みんなが力を合わせ、心をひとつにして何かをする事、ネットワークの大切さも改めて感じさせられました。

「みんなでチャレンジ!自分らしさを活かせる社会」をテーマに、弁護士の住田裕子さんの講演を皮切りに、登

録団体のワークショップやお茶席・展示など、初めて9日間にもわたり多彩に繰り上げられた今回のフェスティバル。

最終日には内野副知事をお迎えしての交流会でウィズソングの大合唱で幕を閉じました。このフェスティバルを通じ、男女共同参画の取り組みがもっともっと広がっていくことを願っています。

最後になりましたが、フェスティバルの開催に当たり、ご協力いただきました方々に心から御礼申し上げます。

「ウィズフェスティバル2004」実行委員会  
委員長 土屋 瞳



## 「あなたがチャレンジ あなたの未来」

講師 住田 裕子



## プロフィール

弁護士

東京大学卒業後、昭和54年東京地検検事任官、

法務省民事局付検事(女性初)等を経て、平成8年弁護士登録、

内閣府男女共同参画会議議員等公職多数

TV「行列のできる法律相談所」出演中

## 自己紹介から

私が目指した法曹界は女性に対してはまだまだ厳しく、裁判官になりたくても、女性を歓迎していませんでした。また、弁護士も大手の事務所は女性を採用しなかったのです。そこで検事になりましたが、検察も男の世界でした。同期の検事と結婚して、働きながら二人の子供を産み育てましたが、家事・育児と仕事、全部をきちとこなすというより、それぞれの中で優先順位をつけながらギリギリの所を綱渡りでやってきたように思います。

仕事が続けられたのは、何よりも双方の親、二人の子供、そして私たち夫婦がそろって健康だったからです。非常に運が良く、たまたま社会に生き残れたにすぎません。でも本来は運不運ではなく、能力と意欲があって志を持つ人に道は常に開かれるべきだと思っています。

## 日本の女性の地位は？活躍度は？

日本人の潜在能力は高いのです。教育水準、所得、平均寿命で測る「人間開発指数」は世界でトップクラス。177カ国中第9位です。しかし女性の「活躍度」となると先進諸国ではほぼ最下位です。78カ国中38番です。日本は女性の力を十分に使っていない、とてももったいない国です。この「活躍度」は、国会議員、専門職、管理職等に占める女性の比率や女性の所得を基準に測ります。まず、日本の女性議員の数。国会も地方議会もちっとも増えませんね。女性管理職の割合は日本は9.7パーセントですから10人に一人もいない。管理職になるような年齢層の方が結婚や出産で退職してきたため、層が非常に薄いからなんです。女性の所得は、男性のほぼ6割程度です。日本の場合、最初の子供が生まれたら7割が仕事を辞めています。年齢による労働力率をみるとアルファベットのM字型になり、先進国ではこういうカーブをとっている国は日本だけです。

日本は「男は仕事、女は家庭」の固定的性別役割分担意識が非常に強く、お父さんの家事の参加度が極めて低いのです。共働きしているお母さんは家事も育児も仕事もで、世界的に見て余暇時間が一番少ない実態があります。

性別役割分業の意識は、職場、地域にもあります。省庁も経済関係の大臣には女性がいません。厚生労働省、文部科学省、環境省などは女性でもいいけれども、「難しいところには女性は向かない」みたいな意識が非常に強く、女性が意思決定過程に進出することが構造的にむずかしい状況です。

## 少子化の問題

世界的にみて、子どもがたくさん生まれる国は、女性が社会で活躍している国。女性にも経済力があれば安心して子どもを生む気持ちになります。「女性が働き、社会に進出すると、家事や育児がおろそかになり子供を産まなくなる」というのは実は正しくないということなのです。

## 離婚や少年犯罪が増える本当の原因は？

次に、女性が社会に進出すると「離婚が増える」とか、「少年犯罪が増える」とよく言われます。しかし、離婚が増えたのは男女ともに、未熟で自立できていない人が増え、家庭生活や共同生活ができにくくなったということが家裁の調査などから分かります。依存心が強く幼稚な男性・女性が増えているからで、女性が強くなっているからではないんです。「コミュニケーション能力の低下」が、最近の心の問題のキーワードではないでしょうか。自分の気持ちを言うことも大事ですが、相手の気持ちがわかるのがコミュニケーション能力。「共感性」ということです。相手の気持ちがわからない人が増えているという残念な現状があります。自分自身の感情がよくおさめられない子供も大人も増えている。だから問題があったときに、自分は悪くない、常に周りが悪いと思う自己中心的な考え方で、どうしたらいいかわからなくて暴力を振ったり、相手に対する不満になったりする。「バカの壁」を書いた養老孟司さんは「人の心がわかることが非常に重要で、これが教養なんだ」とおっしゃいました。親から善悪が大事だと教えてもらう規範教育をしっかりと受けることです。そして集団の中で対人関係能力を身につけることも必要です。私たち親の世代として、これからの子供たちに対していい環境をつくっていく責任があると思います。

## 男女ともに自立した生き方を

## ～男女共同参画社会に向けて～

男女共同参画とは、男性も女性もしっかりと精神的な自立をする。その上で社会の中で力を発揮できるよう経済的な自立をすることです。「教育も受けず仕事も訓練もしていない若者」が70何万人と言われています。定職につかないフリーターは何百万人も言われています。せつかくの能力を社会の中で発揮できない。もったいなくてしょうがないですね。男性も女性もしっかりやってほしい時にそういう状況になっている。ましてや少子化の時代、見過ごすことのできない問題です。

まず、女性が、今まで眠っていた、日本の場合ほとんど活用されていない能力を使わないともったいない。女性もしっかりと社会で力を発揮できる方向に変わって行かなくてはいけない。そして、もう一つ。これから続々と定年退職を迎えられる方々が、日本のこれからの宝になるはず。この方々の活力を今度は地域で存分に発揮していただかなくてはならない。

## 女性のチャレンジ

日本は、世界でも有数の「少子化」が急速に進んでいる国。

「女性の活躍度が先進国の中で最下位」にある国。しかも「役割分業意識」が極めて強いという国です。このような日本の社会の中で、女性の力を発揮することが、期待されています。

まずは、意思決定過程に参画する、「上へのチャレンジ」を。次に、これまで女性ゆえに阻まれていた分野への、「横へのチャレンジ」を。そして、年齢的な壁を超えて、これからの人口減少時代に、今まで家庭で蓄えてきた能力を今度は社会で発揮していただく、「再チャレンジ」を。これら3つの新たなチャレンジをぜひしていただきたいと願っています。

## 模擬法律相談

“こんなとき、あなたはどうしますか”

～行列のできる住田法律相談室～

相談室長 田 裕子  
コメンテーター 寺田 和子  
木川 秀夫  
事例紹介者 福山 哲郎  
金谷 安子

### 事例1 デート費用を返せ!

38歳男性。26歳彼女と交際3年。食事代や旅行などの費用は全て負担。彼女の誕生日には指輪もプレゼントした。僕は当然結婚を承諾してくれたものだと思っていたところ、彼女から結婚するつもりはないと言われた。貢いできた200万円を取り戻したい。

木川：これは詐欺みたいなものだ。3年もつき合っただけで指輪までもらってその気がないなんて精神的なショックが大きいだろうし、慰謝料を請求してもいいと思うケースだ。

寺田：自分勝手な思い込みで、一方的にプレゼントなどをしてきたのに今更返せと言われるのは心外。男だから払うというのは、男の庇護のもとに女はあっているからで、女性を人生のパートナーとして選ぶという気持ちが見受けられない。

住田：法律上の契約関係でいえば恋愛中は拘束力がない。法律的には恋愛中のプレゼントは無償の贈与にあたり返還する債務はない。しかし、男は結婚して家庭を持たなきゃいけないという40代前後の男性の伝統的価値観、もう変えないとそういう意識を持った女性は少なくなっている。内閣府の調査によると伝統的な価値観を持つ男性ほど未婚率が高いという結果もある。

### 事例2 この家は私(娘)のものです

41歳独身女性。高校卒業後親の意向で地元の企業に就職。兄は東京の大学へ進学し商社に勤務。結婚し2人の子あり。母の死後、父を在宅介護中。将来は自宅でハーブの教室を開きたいので、今の家に住み続けたい。家を自分の名義にすることができるだろうか。でも、兄には長男の役目として墓の管理はしてほしい。

寺田：妹は親の介護をしながらこの家を支えてきて、そのために結婚も逸してしまった。これから自分の

人生を花開かせるためにも家は妹名義にしてあげてほしい。

木川：兄もいずれは、ふるさとに帰ってきたい気持ちもあるだろう。お父さんは口には出さないけど、息子が帰ってきたらという気持ちもあると思う。早急に決めなくてもいい。

住田：今の裁判所は、居住権を自主的に認めるので、何らかの方法で住み続けることは可能である。そういう遺産分割の方法を認めるというのが今の流れだ。遺産相続ということでは、長男が法定相続分または遺留分の権利を主張することも考えられるが、今は実質的に誰が父の面倒を見たかということも重視され、貢献部分を財産評価してくれる可能性があり、大学の学資も親が払ってればある程度カウントされるので妹にかなり有利だ。ただ、お墓は長男だから管理しろというのは一貫性を欠いており、妹も、やはり家を継ぐのは男の責任と思っている。お父さんも墓も含めて面倒を見るということで、お父さんに納得してもらって遺言を書いてもらい、処分する時には代金の何分の1か分ける位が良いおさまり方と思う。全部だと相続税で妹も大変だと思う。

他にも2件の事例が相談され、住田室長から適切な見解をいただきました。



11月7日(日)

● ウィズフェスティバル2004実行委員会主催

ワークショップ「こころの痛みとからだの痛み」

講師 東京医科歯科大学大学院心身医療科医師 麻生 佳津子



プロフィール

1940年、大阪府生まれ。大阪市立大学医学部卒業。京都、ストックホルム、福井などで麻酔科医として勤務した後、東京医科歯科大学附属病院麻酔科蘇生科に勤務。2000年からは、同病院心身医療科に所属し、現在に至る。

思春期の病気体験をきっかけに音楽家志望から、お世話になった女医さんへの憧れから医師を志望した。麻酔科医となり、多忙な日を過ごしていた壮年期、病院で仕事をしていたとき突然意識がなくなり、TIA（一過性脳虚血発作）を起こした。「あのまま他界していたら、私の人生何だったんだろう」「何のために生まれてきたのか？どのように生きればいいのか？」と人間とは何かを追及するようになった。人間をトータルに見るトータルライフ人間学（TL人間学—高橋佳子氏提唱）に出会い、患者さんにとって身体のみならず心が癒されることの重要性を認識。以来身体と心の痛みをともに癒すことのできる医療を求め続けている。

現在、麻酔科の中の一分野であるペインクリニック（身体の様々な痛みを治療する分野）を主体に勤務。対話の医療により、癒された患者さんのケース紹介として、私たち

人間には4つの痛みがあり、①身体的痛み②精神的痛み③社会的痛み④スピリチュアルペイン（霊的痛み）を誰もが持っていて、それらが癒されることが必要。身体的な痛みに対しては医療者としての技術・知識が基本になる。そして、不安や葛藤などの精神的痛みや、特に、生きる意味を見出せないといった霊的な痛みに対しては、TL人間学に基づいて人間を魂存在として捉えることがとても大切。つまり、患者さんの心と身体をトータルに見つめた「対話の医療」が必要だと思う。患者さんが痛みの軽減と共に他の3つの痛みも癒されて新たな人生を歩んでいただけることが私の喜び。

「人は変えられない→自分が変わって関わりが変われば、関係がよくなる」と結ばれました。（坂根阿喜子 記）

● メンズリブフォーラム岡山

「ようこそ女の男の更年期」～セカンドライフの健幸術～

更年期を上手に乗り越えるための健康術について、医学と社会学の両面から一緒に考えてみました。セカンドライフの健幸術として、更年期とその障害についての十分な知識を持つこと、治療や予防法を知ること、生涯を通じて通用する生き方や価値観を身につけること、心地よい人間関係を学びながら構築すること、ジェンダーに気づくことなどが重要であることを強調しました。

（市場尚文 記）



● DV防止サポートシステムをつなぐ会・岡山

DV一日電話相談

DVに悩む人のための電話相談は、今年で三回目。ウィズセンター企画には初めて参加しました。とても注意深い対応が必要なので、受け手側としては毎年事前研修をして備えています。

この企画は広報が肝心です。当該者にどのようにして電話相談の情報を知らせるか、工夫のいるところです。

（貝原己代子 記）



11月9日(火)

● おかやま女性国際交流会

「アデレード研修旅行報告」(2004年8月 実施)

幼稚園から大学入学前まで、各学年1クラスのマウントパーカー・ウォールドフスクールの生徒達は、日本語教室の完成を喜び、訪問中、生け花、盆踊り、照る照る坊主や巻き寿司、おにぎり作りなどを楽しんだ。先生達は教科書を使わず、創意工夫で教えている。高2は2週間の人道援助（今年はカンボジアで）、高3は卒業研究に取り組む。

男女共同参画に関しては、2006年までに審議会の女性比率を50%に、2008年までに審議会の女性委員長の比率を50%にするという。

（橋本信子 記）



11月10日(水) ☒

● 日本色彩福祉協会 ☒

「自分の心の中の色 ☒  
覗いてみませんか？」 ☒

心の色というのは精神的な部分であり、私達にとって今回は新しいジャンルへの挑戦でした。目標に向かって信念を持って進むには自分に自信を持ちモチベーションを高めることです。

参加者の皆さんにワークシートに思い思いの色を塗って自分自身を表現してもらい、その色使いから今の自分を知るお手伝いをしました。 (岸 康子 記) ☒



● イーブくらしきネットワーク ☒

「手作りグッズ レッツチャレンジ」 ☒

今回のテーマは、「環境にやさしい手作り品を、参加者と一緒に作ろう」としました。

バラのプローチは包装紙で作りました。材料は包装紙・安全ピン、ニス・ラッカーで防水も兼ねているので水にぬれても安心です。

ティコゼは、ティポットに入れた紅茶がさめないようにティポットの上にかぶせ、ポットを包み込みます。少しゆとりある生活のために…。

バルーンは世界一のバルーン作者 野村昌子さんを迎え、かわいいお花の顔のバルーンを作りました。先生が作った大きな大きな熊のバルーン（全長約2m）には、大人も子どもも大拍手、先生のパフォーマンスに見とれました。 (早川美也子 記) ☒



11月13日(土) ☒

● NPO法人 さんかくナビ ☒

「リーダー・支援者のためのアロマセラピー」 ☒

やさしいアロマの香りと心地よい音楽の流れる部屋で、一人でできるリラクソスの仕方や二人で相手のぬくもりを感じながらの身体ほぐしを行いました。

リーダーや支援を行う人々には、どうしてもストレスがたまります。簡単にできる方法で、取り除いていくことで、活動もより豊かに進めていきます。

二人で行うヨガは、緊張や凝り固まっている気持ちをほぐす効果があるということでしたので、活動のスタッフメンバーや家族、友達で試してみたいと思いました。 (糸山智栄 記) ☒



● ウィズセンター情報コーナー ☒

ビデオ上映「百合祭」 ☒

ウィズセンター情報コーナーが初めて企画したビデオ上映会。「高齢者の性」という難しいテーマを、さらっとコミカルに描いて人間の生きる本質を問いかける約100分の映画です。主役の吉行和子をはじめ、ミッキー・カーチス、白川和子など個性派の俳優さんたちが繰り広げるコメディタッチのストーリーを楽しみながら、「年をとるとはどういうことか…」皆さんそれぞれに考えられたのではないのでしょうか。 (小林鈴代 記) ☒



11月14日(日)

岡山女性フォーラム

「ちょっと立ち寄り 性の話」

～今あなたが本当に知りたいこと 知っておくべきこと～

岡山女性フォーラムでは'99よりリプロダクティブ・ヘルス/ライツに取り組んでいる。昨年より特に思春期のリプロダクティブ・ヘルスに関する講演会を開催しているが、今年度は性感染症の増加に危機感をもち、岡山の現状を知り、正しい性の知識を学び、性の健康について考えてもら

う機会を提供したいと考え企画した。

上村茂仁医師の講演では、岡山の若者の性の現状が大都市と田舎で大きな違いはなくなっていること、進学校でも同様であることから、早急に強力な支援システムを構築する必要があると感じた。その後のSTIカフェでは、若者がピアエデュケーターとクイズを交えて、性感染症、避妊方法、コンドームの正しい装着方法などを話し合った。ワークショップ後もフロアの小テーブルで話がはずんでいた。日頃、ウィズセンターに来ることの少ない若い人達がこれを機会に利用するようになることを期待したい。

(金重恵美子 記)

登録団体交流会

交流会には多くの登録団体の方たちや内野副知事が参加され、団体の活動状況の発表や、色々な出しものに合わせて一緒にダンスをしたりゲームをして楽しくなごやかに過ごしました。そして最後は全員でウィズソングを合唱しました。



パネル展示

登録団体の活動状況等の写真や記録等をパネルに展示しました。



プレイベント

今年のフェスティバルでは、初めて10月26・27日の2日間岡山一番街のイルカの広場でフォークダンス、大正琴演奏、人形劇、うらじゃ踊りやかさ踊りなどでにぎやかにプレイベントを行い、本番に向けて大いにPRをしました。



手踊りと銭太鼓(つくし会の皆さん)

出展団体

- イーブくらしきネットワーク
- 岡山市婦人防火クラブ連絡協議会
- フォーラム2000まび
- C・Tくらぶ
- 岡山さんかく会
- 外国人入国在留相談センター
- おかやま女性国際交流会

ウィズフェスティバル2004 実行委員名簿

氏名	所属団体
石川 三四	岡山地域男女共同参画活動推進センター
出井 節子	東備女性セミナー
井上 和子	レディースくらしき
浦上 量代	岡山地域男女共同参画活動推進センター
岡村 咲津紀	チョコボラ・ジュニアの会
貝原 己代子	DV防止サポートシステムをつなぐ会・岡山
金重 恵美子	岡山女性フォーラム
金谷 安子	イーブくらしきネットワーク
木川 秀夫	山さんかく会



住田裕子さんとともに

(50音順)

氏名	所属団体	氏名	所属団体
国司 幸子	いかさ女性セミナー	丹羽 文子	東備女性セミナー
萩尾 寛江	Tくらぶ	土屋 瞳	フォーラム2000まび
坂根 阿喜子	14期岡山県女性のバス	寺井 恵子	おかやま女性国際交流会
早川 美也子	イーブくらしきネットワーク	寺田 和子	山さんかく会
福山 哲郎	リティーウーマン	須崎 貴美子	おかやまライフ・21ネットワーク
藤村 侑久子	高上川女性フォーラム	中桐 美和子	岡山市女性大学三期会
山口 茂子	山市婦人防火クラブ連絡協議会		

# 参画社会へ Let's Go!

## ～シベリア横断走り旅～☒

アテネ五輪での日本女性の活躍がめざましかった2004年、世界初、ロシアのサンクトペテルブルクからウラジオストクまでの1万417キロを約7ヶ月かけて走破した女性があります。視覚障害者の伴走者としても活躍されている市民ランナー貝畑和子さん(倉敷市在住・51歳)にお話を伺いました。☒



貝畑 和子 さん☒  
(ロシアの子どもからのプレゼントを手にして) ☒

### 始まりは300メートル☒

子どものころは体が弱く体育も見学することが多かったという貝畑さんは20年前子育て仲間に誘われて走り始めました。「最初は近所の神社まで往復300メートルという距離からのスタートだったんですよ。」以来、走ることの楽しさを知り、大阪国際女子マラソンは2002年まで17回連続出場、1994年のスパルタスロンを始め、2001年にはサハラマラソン(2位)、2002年には北米大陸横断レース(1位)など数々のフルマラソンやウルトラマラソンに挑戦してこられました。

### 海の向こうの国への思い☒

新潟の海沿いの町で生まれ育ち、海が大好きという貝畑さん。子どものころから海の向こうの国に対する思いが非常に強く、海外へ行くたび上空から見ていたシベリアにはとても興味を持っていたそうです。世界一周ランに挑戦中のロシアとデンマークの男性ふたりに合流し、3月1日サンクトペテルブルクの凍った海上からスタート、10月10日ウラジオストクにゴールしました。ゴールした時もやっぱり海で泳いだとか。

### シベリアを振り返って☒

「6月の始め4000キロのところで疲労骨折し、もうだめだとあきらめかけたことがありました。ロシアの人たちが『せ



っかくのチャンス、続けよう。』と病院や針治療を探してくれたんです。この好意を無駄にしたいいけないと、4日間だけ休み再出発。シベリ

アの川や湖で患部を冷やしながら走るうち少しずつ回復しました。シベリアの自然に助けられましたね。テント泊で、野生動物の声に怯えたこともありましたが、学校や施設、農家にも泊めていただきました。牧場では乳絞りを体験させてもらい、小学校では冒険談や簡単な日本語を教えるなど、多くの人たちとのふれあいや思い出が宝物です。『和子、ススリーバ!(がんばれ)』と言って何百人、何千人もの人に見送られました。ロシアの人たちの『ススリーバ』が風になり私の背中を押し、日本からは家族や友だちが引っぱってくれたのかな。」と笑顔で語っていただきました。



### これからも走り続けていたい☒

次はどこへ?とお尋ねすると、「考えていません。夢もちょっと休憩。夫(俊行さん)は7ヶ月間ひとりで新聞に載っているレシピなどを参考に食事を作り、不慣れな家事をこなしました。『それもよかろう 一人で酒を飲んでいる』留守中夫が詠んだ句です。今回はかなり、寂しい思いをさせたようです。これからの20年は、お互いがお互いのことを考えて生きていかなければならないかな。でも、走り続けていたい。ひとりではなく、誰かといっしょに走っていたいと思っています。特に、障害者の人の伴走を頼まれたら、ぜひ一緒に走らせてもらいたい。



来年岡山で開催される全国障害者スポーツ大会で、ボランティアとして何かできるのであれば、これからの1年は、そのために使いたいと思っています。」と力強く話されました。

(取材 情報コーナー:林)☒



ウィズカレッジ女性のチャレンジ支援講演会 Part 1  
もう一度働きたいあなたへ (9月26日開催)

内閣府第1回「女性のチャレンジ賞」支援大賞受賞  
講師 平田 富美子さん (IWAD環境福祉専門学校校長)

現在開講している専門学校で、技術・技能を身につけた9割以上の人たちが年齢に関係なく就職している。転職はキャリアであり、プラスとして企業に売り込むことが必要。人生のプランを立てて、継続して頑張ることが大切。資格を持つこと、年齢制限があってもあきらめずチャレンジすること、現場は女性の感性を生かせる場所であることなど、自分の体験を基にパワーあふれるお話をしていただきました。



ウィズカレッジ女性のチャレンジ支援講演会 Part 2  
ワーキングマザー奮戦記 (10月17日開催)  
～仕事と家庭の楽しい両立～

講師 上田 理恵子さん (株式会社マザーネット代表取締役社長)

企業で働きながら子育てをしていた時に、会社の上司の言葉に傷ついたこと、処遇で辛い思いをしたことや保育所に子どもを入れるために直面した情報の不備など、家庭と子育ての両立に苦労したことから起業に至るまでの自分の思い、行動をユーモアたっぷりに具体的に話していただきました。働くお母さんにやさしい社会が来るように次々と新しい事業を企画して頑張っておられる上田さんのしなやかな生き方に元気をいただきました。



起業家応援講座 (10月12日・26日開催)

講師 古垣 みゆきさん (株式会社西日本ジャテックス)

起業に際しては、自分の目指している社会的使命や展望を大切に事業構想を立てること。また、続ける為に環境変化に敏感になること(市場環境や業界環境の変化)、有望な事業は何かあらゆる方向を考えること、折角知り合えたチャンスを大切にネットワークを作ることなどを教えてもらいました。また、起業して頑張っている先輩社長の話を聞いたり、自分の事業プランをまとめてプレゼンテーションしました。



フォローアップ講座 (10月26日開催)

講師 大野 曜さん (独立行政法人国立女性教育会館前理事長)

男女共同参画社会を実現するためには男性も女性も主体的に考え、行動する力を身につけることが大切であるが、現状では女性は力を出しきれていないと語られた。女性が人生の選択肢を広げてきているが、男性はまだ枠に縛られている傾向がある。女性関連施設や女性たちがこれまでの蓄積したノウハウを生かして男性のためにプログラムを組むことが必要になってきていると話された。



アサーティブ・トレーニング講座 (11月20日・21日開催)

講師 森田 汐生さん (NPO「アサーティブジャパン」代表)

アサーティブとは、自分の気持ちや意見を相手の権利を侵害することなく、素直に、誠実に、対等に表現することで、アサーティブネスには、誠実、率直、対等、自己責任の4つの柱があるというお話でした。小さなグループを作ってグループワークをしたり、体験を何度もロールプレイで体験して、それについて汐生さんからアドバイスしてもらいながら、自分の要求を相手に伝える方法や「ノー」と言って断る方法などの表現を学びました。



ウィズセンター クリスマスライブ (12月18日開催)

出演者 MMBC (ミュージックベル) ×  
One Up With (ボーカル&キーボード) ×  
しゃんそん'z (アカペラ) ×  
レインボウ・ヴォイス (コーラス) ×



会場全員で「世界に一つだけの花」を大合唱しました。

メディアからの発信 vol.3

「カギ握る女性読者からの発信」

朝日新聞東京本社生活部記者 竹信 三恵子

「新聞はどうしてもっと、女性の問題について書いてくれないんですか」。取材などで女性たちにあうと、しばしば出てくる疑問や苦情だ。



最近では、「看護婦」が「看護師」になるなど、女性を別扱いする言葉は差別にあたるとして、攻められつつある。勤め先の新聞社でも、男性は「氏」、女性は「さん」といった男女別敬称を改め、「さん」に統一した。だが、表現上の気配りの一方で、女性にとって必要な情報がニュースになる機会は、まだ十分といえないのは確かだ。

たとえば、第3号被保険者制度など女性の年金についての疑問も、記事になるにはかなりの時間がかかった。最近

の憲法改定論議でも、家族をめぐる条項の見直しについての報道は少なく、女性たちは、自分に密接にかかわるはずのこの話題を知らないことが多い。

原因はさまざまだが、マスメディア内部の女性比率が低すぎるという点は見逃せない。04年の「男女共同参画白書」をみても、新聞の女性記者比率は、まだ11%なのだ。

改善には、実は、受け手からの働きかけが重要だ。読者が、投書や電話などでメディアの内側、特に意思決定層に「読者にはジェンダー報道が必要だ」と伝えていく、つまり、男性比率が圧倒的な組織に、男女比半々の外の社会の風を送って補正するのだ。

「あの女性問題記事が役に立った」と具体例をあげて後押しするのも大切だ。記者は勇気百倍、「またがんばろう」という気になる。

巨大なメディアの前に女は無力、なんてあきらめないで。メディアは購読料など読者からのお金で成り立っている。女性たちは、その半分を占める重要な存在なのだから。

## ウィズカレッジ参加者募集

### リレートーク時代を拓いた岡山の女性たち

社会を変革していった岡山の女性たちの生き方を学ぶことにより、現代における男女共同参画の意義について考える連続講座が開催されています。

- |      |                          |      |                            |
|------|--------------------------|------|----------------------------|
| 日時   | 第4話 1月23日(日) 10:30~14:30 | 内容   | トク&トーク                     |
|      | テーマ 専門職に就いて働いた女性たち       | 日時   | 1月30日(日) 13:00~15:00       |
|      | 第5話 2月 6日(日) 10:30~14:30 | 会場   | ウィズセンター                    |
|      | テーマ 変革をめざした女性たち          | 講師   | 滝見 稔幸<br>(東京大学大学院教育学研究科教授) |
|      | 第6話 2月13日(日) 10:30~14:30 |      | 汐見 和恵<br>(立教大学社会福祉研究所研究員)  |
|      | テーマ 芸術・文化・スポーツで活躍した女性たち  | 募集人数 | 150名                       |
| 会場   | ウィズセンター                  | 申込期限 | 1月26日(水)                   |
| 講師   | 岡山女性史研究会の皆さん             |      |                            |
| 募集人数 | 各30名                     |      |                            |
|      | 申込期限 各回とも開催日の前日まで        |      |                            |

### パートナーシップ講演会

男女が対等なパートナーとして力を合わせて人生を過ごし、よりよい関係を築いていくための方法について学びます。

- |      |                            |
|------|----------------------------|
| 日時   | 1月30日(日) 13:00~15:00       |
| 会場   | ウィズセンター                    |
| 講師   | 滝見 稔幸<br>(東京大学大学院教育学研究科教授) |
|      | 汐見 和恵<br>(立教大学社会福祉研究所研究員)  |
| 募集人数 | 150名                       |
| 申込期限 | 1月26日(水)                   |

## チャレンジ&チェンジセミナー(就職準備講座)参加者募集

- |      |                                       |      |  |
|------|---------------------------------------|------|--|
| 内容   | 労働・社会保険と税金、職務経歴書の書き方、自己表現トレーニング等      | 日時   | 2月23日(水)~3月4日(金)の毎週水・木・金曜日の6日間 10:00~15:00 |
| 受講資格 | 結婚・出産・育児・介護等で離職し、再就職を希望する女性で全期間受講できる方 | 会場   | ウィズセンター                                    |
|      |                                       | 募集人数 | 25名  |
|      |                                       | 申込期限 | 1月25日(火)~2月18日(金)                          |

※受講料はいずれも無料です。

※受講を希望される方は、電話、FAX、ハガキ、Eメール(danjo@pref.okayama.lg.jp)で①住所②氏名③電話番号④講座名をウィズセンターまでお知らせください。

## 技術講習会 パソコン(基礎)参加者募集

- |        |                                    |        |                         |
|--------|------------------------------------|--------|-------------------------|
| 〔内容〕   | 就業に関する知識とパソコンの基礎技術                 | 〔会場〕   | ウィズセンター、西日本電子計算学院       |
| 〔受講資格〕 | 家庭責任の分担を理由に離職し再就職を希望しており、全期間受講できる方 | 〔募集人数〕 | 25名(選考により決定)            |
| 〔日時〕   | 2月16日(水)~3月16日(水)(21日間)            | 〔申込期間〕 | 1月25日(火)~1月28日(金)       |
|        | 10:00~16:00                        | 〔受講料〕  | 無料(教材費は実費負担)            |
|        |                                    | 〔申込方法〕 | ウィズセンターへお越しの上申し込んでください。 |

## 男女共同参画まんが

### 地域活動



仕事を持っている人も、積極的に地域活動に参加しましょう。

## ウィズライブラリー

~女性の労働を考える~

図書



### 『定年退職と女性』

- 女性労働問題研究所(編)
- ドメス出版(2004年)

40年余りの「労働の日々」の中で様々な差別と闘いながら、女性の社会的地位の向上を求めて、みずからを高め、成長しつつ「定年退職」を迎えた女性労働者10人の感動的な道のり。

ビデオ



### 『女性たちの平成不況』

- 樋口美雄・太田清 家計経済研究所(編)
- 日本経済新聞社(2004年)

2000人の女性の10年にわたる生活と経済を集積した調査データから浮き彫りにされる結婚観、就業観、出産と育児、家計のやりくりと消費、幸福感と不安などを多角的に捉えた記録。



### 『あなたを応援します』

- 内閣府男女共同参画局(2004年)
- 40分

再就職、起業、NPO活動など様々な分野で生き生きとチャレンジする女性たちの様子を写真家の織作峰子がリポートし、力強いメッセージを送ってくれます。

ウィズセンター情報ライブラリーの本を読んでのご感想をお寄せください。

配偶者からの暴力で悩んでいる方へ☒

## 「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)」が改正されました☒

配偶者からの暴力は、犯罪となる行為を含む重大な人権侵害です。☒

保護命令の対象を、子どもや離婚した元配偶者まで拡大するとともに、退去命令の期間を2か月に延長することなどを柱とした改正法が成立し、平成16年12月2日に施行されました。☒

### 改正の主な内容☒

#### 1 「配偶者からの暴力」の定義が拡大されました☒

これまでの「身体的暴力」に加え、「身体的暴力に準ずる心身に有害な影響を及ぼす言動」、つまり、精神的・性的暴力が加えられました。☒

#### 2 保護命令制度が拡充されました☒

保護命令とは、生命や身体に重大な危害を受ける恐れが大きいときに裁判所が発令するもので、接近禁止命令と住居からの退去命令とがあります。☒

- 拡充された内容☒
- ①離婚後も暴力が続く場合、元配偶者も対象とする。☒
  - ②被害者と同居する未成年の子どもも接近禁止命令の対象とする。☒
  - ③退去命令の期間を2か月に拡大。☒
  - ④退去命令についても再度の申立てを可能とする。☒

#### 3 市町村でも配偶者暴力相談支援センターの業務ができるようになりました。☒

#### 4 国は、暴力の防止、被害者の保護のための基本方針を、都道府県は基本計画を定めることになっています。☒

#### 5 被害者の自立支援について明確化されました☒

- 配偶者暴力相談支援センターの業務として、被害者の自立生活のための支援や、民間団体との連携が明記されました。☒
- 福祉事務所による被害者の自立支援のための規定が設けられました。☒

#### 6 その他☒

警察本部長等の援助や、外国人、障害者等への対応などが明記されました。☒

詳しくはウィズセンターへ☒

関連サイト☒内閣府の「配偶者からの暴力被害者支援情報サイト」 <http://www.gender.go.jp/e-vaw/index.htm>



ウィズセンターは土・日曜日も開館しています。☒  
お気軽に、お越しください。☒

## ウィズセンターはこんなところ ☒

男女共同参画社会とは、☒  
男女の人権が等しく尊重され、☒  
お互いが支えあい、利益も責任も分かちあえる、☒  
いわば、女性と男性の☒  
イコール・パートナーシップで築き上げる☒  
バランスのとれた本当に豊かな社会です。☒  
ウィズセンターはこうした男女共同参画社会づくりを☒  
推進していくための施設です。☒

- 1 ほしい情報が手に入ります。☒
  - 関係機関の情報誌の閲覧や、男女共同参画に関する図書・ビデオなどの貸出のほか、人材情報も提供しています。☒
  - 就業に役立つ情報を提供しています。☒
- 2 相談ができます。☒
  - 女性の相談員が様々な悩み事に耳を傾け、解決のお手伝いをします。☒
  - 就業に関する様々な相談に応じます。☒
- 3 学習ができます。☒
  - 男女共同参画のための各種講座を行っています。☒
  - 再就職に役立つ技術講習会を行っています。☒
- 4 便利な施設が利用できます。☒
  - 男女共同参画に関する県民のみなさんの活動を支援しています。☒
  - 男女共同参画に関する活動の活性化と交流を深めるために、会議室、交流サロン、作業室などを提供しています。☒

## ● ● ● 講座受講生からの ☒ 声

### 起業家応援講座 ☒

- 何かやりたいと長い間漠然と考えていましたが、具体的なプランの立て方を教えていただいて、なんとなく出来るような自信がわいてきました。☒
- いろんなアイデアがあり、パワーを感じ、行動力を見せてもらい、後押しされた感じです。☒

### アサーティブ・トレーニング講座 ☒

- 自己を否定せず、他人を否定せず、より好ましい自他のコミュニケーションを進める上で大変参考になりました。☒
- 自分の気持ちを具体的にはっきり言わないと相手には伝わらないんだということを学びました。☒

センターへのご意見はご遠慮なく ☒  
ハガキ・FAX・Eメールまたはセンターの提案箱へ ☒

「情報誌With」は季刊発行です。☒

## ウィズセンター利用のご案内 ☒

開館時間 ☒ … 火～土曜日 ☒ 9:30～20:00 ☒  
日・祝日 ☒ 9:30～17:00

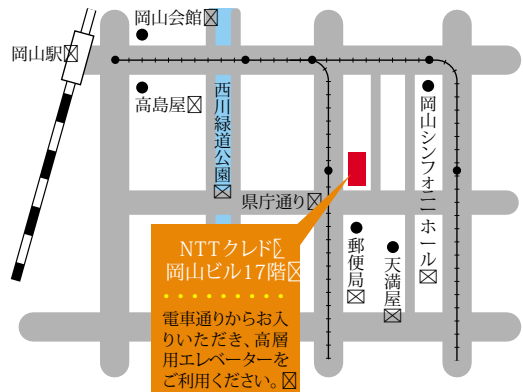
相談員による ☒ … 火～土曜日(祝日を除く) ☒ 9:30～17:00 ☒  
一般相談 ☒ (受付は16:30まで) ☒  
就業相談 ☒

特別相談 ☒ … 弁護士による法律相談 ☒ ● 原則第2・4金曜日 ☒  
(予約制) ☒ 医師によるこころの相談 ☒ 原則第1・3金曜日 ☒  
医師によるからだの相談 ☒ 原則第1土曜日 ☒

休館日 ☒ … 月曜日及び年末年始 ☒

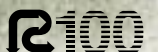
☒ 電話 ☒ … 086-235-3307 (代表) ☒  
086-235-3310 (一般・特別相談) ☒  
086-235-3309 (就業相談) ☒

ホームページ ☒ … <http://www.pref.okayama.jp/seikatsu/danjo/>



交通案内 ☒ … 岡山駅から徒歩10分 ☒  
バス ● NTT岡山前下車すぐ ☒  
天満屋バスターミナルから徒歩2分 ☒  
市内電車 ● 郵便局前下車すぐ ☒

ウィズ冬号 (vol.31) / 平成17年1月発行 ☒  
編集・発行 / 岡山県男女共同参画推進センター ☒  
〒700-0821 岡山市中山下1-8-45 NTTクレド岡山ビル17F ☒  
TEL (086) 235-3307 (代) FAX (086) 235-3306 ☒  
Eメール: danjo@pref.okayama.lg.jp



古紙配合率100%再生紙を使用しています ☒